

振り返りから学びを構築する体育学習の在り方について —ハードル走と跳び箱の実践から—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 造形・創造科学系（保健体育）

氏 名 西岡 慎伍

2020年より小学校では、学習指導要領が全面実施となった。改訂に伴い、体育科の目標が「豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成すること」となった。そのためには、運動への好意的態度形成に至る体育が必要だと考えている。これを換言すれば、子どもが運動することへの楽しさを知り、主体的に運動に学ぶ態度である。

しかし、現状では運動のできる子とできない子が存在し、できない子にとっては、体育科の目標実現が困難である。なぜ体育科では、できない子が生まれるのか。また、主体的な学びは損なわれるのか。その理由は現状の標準的な体育授業にあると、ここで問題提起する。

そこで、本稿では①目標・内容を子どもの実態に合わせるべく臨機応変に設定できる適応的な体育学習の在り方、②主体性を保つ学習環境と豊富な運動経験の振り返りから学ぶ体育学習の在り方、以上の2点を提案する。